



学校だより

12月号

令和2年12月1日
横浜市立善部小学校
校長 福田 美穂

読書は心の栄養

学校長 福田 美穂

11月とは思えないほど暖かな日が続いていましたが、今年もあと一か月となり、季節に合った気温になってきました。学校にある木々の葉がたくさん落ち、ベジボラの皆さんに何回か掃除をしていただきました。きれいになった校庭で遊んだり鉄棒の練習をしたりする子どもたちが以前より増え、体を動かすにはこのくらいの気候の方がよいようです。

さて、11月中旬から読書月間が続いています。楽しく、意欲的に本を読んでもらいたいと代表委員会で決めたブックマラソンの読書カードを図書委員会が作り、目標を達成したらしおりなどの素敵なプレゼントがもらえます。コロナ感染防止のため、休み時間に学校図書館を利用できる学年が決まっているため、できるだけ長いお話の本を借りてもらおうと、高学年はページ数で読書カードのコマを進めることができるようにも工夫されています。また目標達成時にはシールを一つもらい、校長室の前に掲示している表に貼り付け、全校みんなでどのくらい読んでいるかがわかるようになってきているのもおもしろい取り組みです。低・中学年の子どもたちは、校長室前の表にシールを貼りに来たとき、「わたし、いっぱい読んだよ。」「〇〇の本が面白かったんだ。」「図鑑を見るのが好き。」「いつも図書館から借りてるよ。」「本屋さんでよく本を買うよ。」「校長先生も読んでも？」と本にまつわるいろいろな話をしてくれました。高学年は学校図書館で借りることよりも、自分のお気に入りの本を持参して隙間時間に読んでいる姿を多く見かけます。善部小の子どもたちは、集中し、いい顔をして本を読んでいるなど校内を回っていて感じます。

私は特に忙しいときや気分を変えたいとき無性に本を読みたくなります。昔（とても若い頃）は試験前になるとやたらと本を買い、気分転換と言いながら読書に没頭して試験勉強を後回しにすることがありました。しかし、根を詰めて考えたり覚えたりするだけよりも、読書後は頭の中に空間ができ、いろいろなことがずっと頭に入ってくるように感じていたものです。さて、子どもたちはどうでしょう。本を手に行っている子どもたちの中には、物語の主人公とともに冒険をしたり、事件を解決したり、登場人物のやり取りにハラハラしたりとお話の世界にどっぷりと浸っている様子が見られます。また、大好きな電車や昆虫、動物の図鑑を読んで、新しい知識を得たり違いを比べたりとまるで博士になった気分を味わっている子もいました。一人一人にその子らしい世界が広がっていくこと、その子のペースで世界が広げられること、人間のもつ素晴らしい力、想像力が高められることなど読書のもつ大きな力を子どもたちの姿から再確認できました。お話レンジャーさんたちによるお話し会も9月より始めています。その選書がとても素敵で、子どもたちが楽しむだけでなく、私も大変勉強になります。本がつながり想像の輪をこれからも大切にしていきたいです。

今年は今までにない状況で学校教育の在り方を模索した年でした。様々な場面でご支援いただき、本当にありがとうございました。急に寒くなりましたので、皆様どうぞお身体をご自愛ください。

